

# OB会だより

## 国臨協OB会関東信越支部

平成24年4月15日

NO 53 号

発行責任者 秦 政行

編集責任者 宮野勝秋

国臨協OB会関信支部事務局

柏市市大井893-8

TEL: 04-7193-0866

## 第31回 総会・懇親会告示

国臨協OB会関信支部

会員各位

会長 秦 政行

遅れ気味の桜が今が盛りとばかり桜花爛漫の時、鮮やかな季節となりました。会員の皆様にはお元気でお過ごしのこととご推察申し上げます。

昨年3月11日に発生した東日本巨大地震の被害から1年、いつになく厳しかった冬の寒さも終わって甚大な被害を及ぼした被災地もようやく春めいた季節となりましたが、今も多くの方々も復興に向けて努力されております、被災された方々、そしてそのご家族、ご友人の方々にささやかでは有りますがお見舞いの意味でOB会として会員の皆様に義援金の支援とご協力をお願いいたしました、会員の皆様のご理解とご協力に感謝し義援金の支援の報告については総会時に会計報告と合わせて報告いたします。

さて、例年行われているOB会関信支部総会・懇親会の開催は例年通りの開催を予定しております。

今年度は例年通り年会費は2,000円とさせていただきます、皆様宜しくお願い致します。会員の皆様、第31回総会・懇親会を下記の通り開催いたします。会員の多くの方へ出席を頂きOB会の絆を発展しながら懇親を図りたいと思っております。時節柄、ご多忙とは存じますが是非都合をつけられて多数のご参加くださる様お願い申し上げます。なを、出欠については同封のハガキにて5月25日(金)までに近況報告を書き添えの上、お送りくださる様お願いいたします。

### 記

日 時 : 平成24年6月2日(土) 12時30分 開始

場 所 : アルカディア市ヶ谷(私学会館)JR市ヶ谷駅下車 徒歩2分

千代田区九段北4-2-25 電話03-3261-9921

懇親会費 : 8,000円(年会費 2,000円含む)

出欠ハガキ締め切り : 出欠・近況報告を書き添えの上 平成24年5月25日(金)

以上

# After-60 & Antiaging(1)

高橋正雄

## 平均余命、あと8.5年

国臨協OB会は、まさにAfter-60会員の親睦と消息を確かめ合う貴重な集いであり、役員諸兄弟の奉仕によって、工夫を凝らした楽しみな会報までであるという、私にとってはまことに有り難い存在であります。

定年を少し残して、医療の現場から退いてすでに20年が経過し、ついに80歳の大台にのってつらつら考えることは、自分の平均余命でした。

平成10年度の平均余命表による、日本人男子80歳のそれは、あと8.5年とありました。

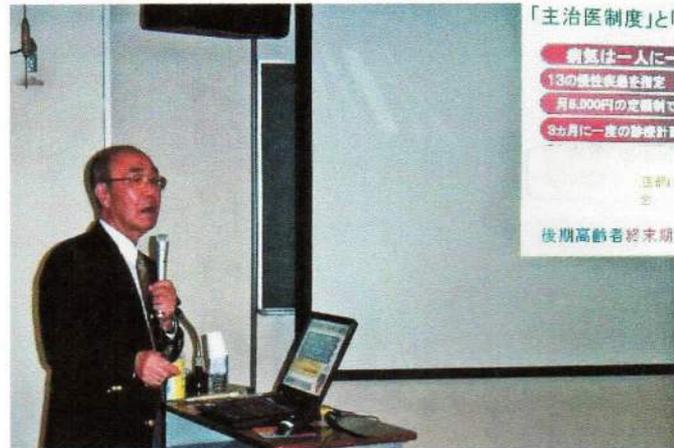
まだこれだけあるのか、あとこれしかないのか、自分は健康寿命でいられるのか、ロコモティブシンドロームの心配はないか、この物忘れの多さはいよいよ認知症か、介護施設で天井を眺めて寝たきりの姿を、ふと想像することもあって身震いします。

## 退職後、なにをしますか？

そんななか、わが臨床検査技師の先輩や同輩OB・OGが、技師学校々長や講師、下請検査会社の支店長や精度管理責任者、公民館館長、市立図書館の図書士、模擬患者会の研究業務に携わるOG、かつて勤務した病院の受付案内のボランティア、病院事務長として地域医療の中核となって活躍しているなど多士済々、毎日が休日の身にとっては、うらやましいを通り越して、さーてこれからどうしようか？自問自答、毎日が日曜日を迎えました。

## 158回目の勉強会

そんなある日、東京北区に住む高校時代の同級生が幹事をしている勉強会から、突然の電話があつて、「予定していた講師の都合がつかない、きて何かしゃべれ」といったことになって、空家になっていた集会所2階に伺い、題名「摩訶不思議な血液の話」を黒板を使って、初めての健康講座を勤めてきました。



それから今年の1月、158回目となる伝統ある勉強会は「インフルエンザから生活を守ろう」の演題で、新幹線を通うこと18回目の健康講座となりました。

何回目かのあるとき、北区の元助役さんが聴講にこられて、帰り際に「区へ補助金の申請をしてみたら、・・・」のアドバイスがあり、駄目で元々と思つて申請したところ「健康講座1年に2回開講」との条件付きで、〇十万元の助成金とともに、北区の区民センターの5階講義室や機材の使用料も一切無料という、“瓢箪から駒”の珍事で、ご町内の世話役さんたちは大喜びでした。



## はまったパワーポイント

一方、テレビの医療・健康番組の盛況、新聞広告欄にはサプリメントの全面広告があふれています。

高名な音楽家のS氏は、毎朝一度に40錠ものサプリメントや薬を飲むそうで、最近の健康への

関心の高まりには驚くものがあります。

健康講座のはじめは黒板や手書きのポスター、次はワープロで作ったブルーバックフィルムをプロジェクターで映写、次にはポジカラーフィルム、やがてOHPの活用へ、これもモノクロから、プリンターの進歩によってカラーのOHPと進化して、洒落たつもりでいました。

ところがここで一大事に遭遇しました。

長野県技師会のお声がかりで、飯田市での幹部研修会でのこと。一大転機と云いますか、打ちひしがれる程のショックを受けました。

数人の演者のなかで、OHPを使ったのは私一人、他の発表者の皆さんは見事に美しいまでのパワーポイントを映しだしての発表でした。格好いい！

60歳代末からパソコンこそ使い始めてはいましたが、両手の人差し指2本で、雨あがりの雨だれのようなキータッチ、これが一念発起してパワーポイントに挑戦するきっかけになりました。

なにしろ、デジカメを武器に、慣れないパソコン、しかし始めてみて画像を構成する面白さと楽しさにすっかりはまりました。

枯渇し委縮を始めた脳味噌の刺激にもるのではないかと淡い期待をしながら、…。

とはいっても、何百人もが徹夜で行列した「iPod/iPad/iPhone」の相次ぐ出現と、目の回るような急速な進歩にとってかわるのも時間の問題、とてもこの歳では就いていくことはできそうもありませんが、…。

それはともかく、検査技師の“健康講座”は我が町の魚菜市场、中央公民館婦人部会、高崎市内公民館、県商工会議所、診療所祭りの記念講演、M商船OB会、企業経営者集団「火曜会」、慶寿大学などなどから徐々に声がかかり、そのうちのいくつかは、リピートがあってシリーズ化する例がふえてきました。

だらだらした話を聞いているより、映像による視覚からの入力、確かな効果がありそうでした。

いきおい演題名も多彩になります。

「インフルエンザから生活を守ろう」「がん診断と治療の最前線」「ロコモ予防で健康長寿」「心も体も丈夫で長生き」「自分の脳は自分で守ろう」「認知



症ストップ」「健康寿命で長生きしよう」などなど。ときどき地元地方新聞にその模様が紹介されることもあります。

### 日本で3基目の重粒子線が

群馬県にがん治療の最新鋭武器といわれる重粒子線照射装置が、群馬大学医学部に導入され、平成17年、重粒子線医学研究センターが新設されるに至り、県民の期待が一気に高まりました。

装置の費用は300億円余、年間運用費は55億円、一疾病の治療費は315万円なり。

なにしろ日本人の2人に1人ががんに罹り、3人に1人が、がんで死亡する時代、まさに往時の結核をも凌駕する国民病？となってきた感があります。

なんでも飛びつくオッチョコチョイの性格は、つてを頼って建築現場に潜り込む？こと2度、広大なドームのような建物内と、ビッシリ並ぶとてつもなくでかい装置にも圧倒されました。



( ↑ 群馬県産業技術センター多目的ホール )

センター長の公開講座の聴講は3回におよび、先進の放医研の臨床例画像などの閲覧に没頭、そうこうしているうちに、研究センターの臨床例画像も公開されてきました。

## がん研振財団パンフ数千部を

(財)がん研究財団(がんセンター敷地内)の協力と応援で、10数種類、数千冊のがん予防啓蒙パンフレット、それもダンボール3箱が自宅に宅配され、聴講者に無料でお配りすることもできました。

そこに、一筋の光明ともいえる、しかもバージョンアップされてより小型にまとまった重粒子線照射装置の県内出現でした。その治療効果にアッと驚く程の迫力さえ感じました。

そんなある日、高崎市内の公民館での健康講座でした。終わってプロジェクターをしまう傍らに、つかつかと一人の白髪の高齢者がおいでになって「わたし、余命半年といわれているがん患者ですが、重粒子線の話聞いて、なんだか希望がわいてきたような、・・・有難うございました」と、講演中もなんとなく目が合っていました。帰路についた後ろ姿が強く印象にのこりました。

## 命を測る臨床検査技師

「医者でもない検査技師ごときが健康講座？なんて・・・」おなじ検査技師のOBから、こんな声もあると、耳打ちされたこともあります。栄養士や理学療法士、看護師、最近では原発事故がらみで放射線技師の出番も結構いそがしいほど増えています。

つたない経験であっても何十年も検査室で培ったものを、あっさり捨てきれない、きっぱり縁を切るのは、なんとしても、しのびない気がしていることと、たとえ医療現場にいなくなっても、生涯一検査技師でありたい、そんな思いもあって、いまだに免許証を返納しないでいます。

医療の一端を担う臨床検査技師を常々「人の命を測る医療専門職」と公言して憚りませんが、その知名度の低さを、なんとかしたい一念も、心の片隅に少しはあるからです。



## 体重80キロのデブ講師

とはいっても、退職時、築地の場外市場の食堂やレストランで培った体重が、なんと80キロ、BMI=27、腹囲93センチのメタボでは、健康講座



の講師を務める資格は全くありません。

タバコを吸いながら禁煙の説教をするに等しいようなもので、そこから一念発起、体躯大改造の特訓が始まりました。

それに、群馬の田舎にいたころは、尾瀬や谷川岳マチガ沢や南面のヒツゴ沢、オジカ沢の岩場に取りついていたり、退職後は日本アルプスへの憧れをメラメラと燃え上がらせてもいました。

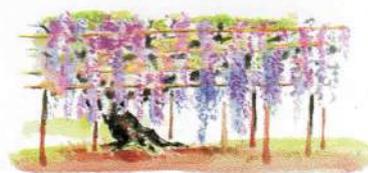
新しい登山靴を新宿東口の好日山荘で買い求め、いざアルプスへとばかり、近くの榛名山麓めがけてトレーニングを開始しました。

ところが僅か3日目で大頓挫、いきなり歩いたために、80キロの体重が、もろに膝を直撃？左膝が悲鳴を上げて、みるみる腫れ上がり、座ることもできない羽目に陥りました。

溜った炎症性リンパ液は、なんと200mlに唾然！として首を垂れる始末とはなりませんでした。

“我田引水”を陳謝しつつ、もう少々

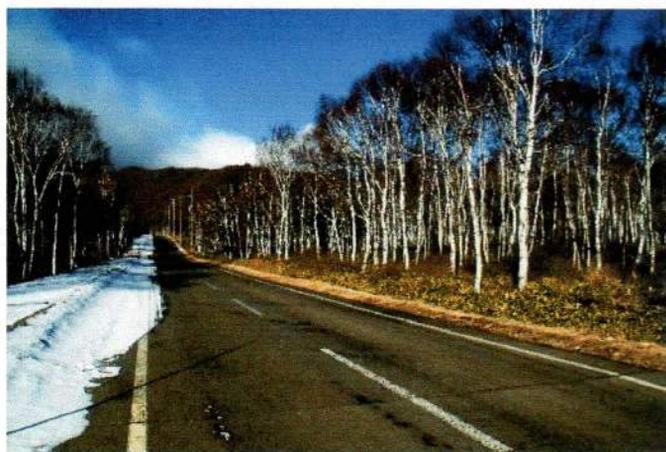
(次号へ)



# マタギ症候群 (5) 藤川淳策

2011年12月23日は信州八ヶ岳山麓の有害獣駆除の日である。山麓や周辺で草木の食害が甚大であるため、山林地主が地元猟友会にシカやイノシシの駆除を頼んだ。日当費は地主が負担するとのことである。有害獣駆除は地元猟師が行うのが原則なので門外漢である植園氏と小生はボランティアとしての参加。

当日は朝8時に八ヶ岳中腹の現地集合。旅館を5時に起床して急いで身支度を行い、前日を買っておいたパンを口に入れる。旅館の朝食は7時からなので旅館の食事をとらない。猟師小屋に向かう途中で昼食のサンドイッチとおにぎりや飲み物を買込む。小屋にいったん集合して車で片道30分の八ヶ岳中腹に急ぐ。



八ヶ岳は最高峰の赤岳が2、899メートル。在職中に頂上まで登山したことのある山である。この日の集合場所は標高1、500メートルの地点で周囲はみごとな白樺林。その数万本近く、日本一だそうだ。この日は40人近い地元猟師が集まった。日頃の仲間以外は知らない面々である。しかし大勢の屈強の男達が集まると異様な迫力のある雰囲気醸し出す。

猟場はさらに150～200メートル登った場所で、気温は-15度以下。下界は晴れて

穏やかであるにもかかわらず、標高1700メートルの猟場ではキラキラとダイヤモンドダストが降り注ぐありさま。それにしても寒い。本日は猟犬を使用しないそうだ。八ヶ岳山麓のような広大な猟場では猟犬の回収が不能になることがあるためである。集まった猟師の半分が勢子役で、半分が出てきた獲物を撃つ立間役。

植園氏と小生は立間役。四輪駆動車に分乗してそれぞれの持ち場に向かう。小生は比較的広い範囲をカバーしなければならないためライフルマンが必要という場所を与えられた。

散弾銃は射程が短いので50メートル前後の範囲しかカバーできない。しかし、有効射程1キロメートルのライフルは広大な範囲をカバーすることが可能である。実際には本州ではそのような猟場は存在しない。100メートル前後の範囲をカバーすればよい。

指示された場所の周辺を歩いてみて、大きな立木のある見通しの良い場所で、立木を背にして獲物を待つ。地面の雪お踏み固め足場を作る。銃に弾を込めて静かに待つ。「始めるよ」の合図が無線のイヤホンに入り猟が始まる。赤やオレンジの派手な色の服装の勢子達が「ホイホイ」と大声を出しながら一斉に進む。土地勘に優れた勢子のリーダーが「〇〇さん前に出過ぎだよ」とか「〇〇さんもう少し右側に寄って」とか無線で号令を掛けながら、立間のいる方向に獲物を追い出すように進む。

しばらくすると勢子の肉声が聞こえだした。しかし獲物の姿は見えない。そのうち勢子集団は小生の前方を通り過ぎてしまった。そして遠くの方角で数発の銃声がかすかに聞こえた。獲物は遠くの立間に出たのだろう。今日は植園氏や小生の持ち場に獲物の姿はな

かった。結局、本日はシカを5頭捕獲したにすぎない。「獲物はもっと多数いた」と勢子は言う。しかし所詮寄せ集め集団で、チームワークに欠け、獲物にうまく逃げられてしまったのだろう。

猟は犬とチームワークである。

翌日の24日は地元佐久での狩猟。12人の猟師が参集したので比較的大き目の猟場で狩りが可能である。群馬県との県境に近い通称「草履小屋」という場所で行うことが決まった。マニュアルの4輪駆動車に分乗して現場に向かう。道路は雪積が少し、がカチンカチンに凍結していて危険である。慎重に運転しながら目的地に向かう。

小生の持ち場は杉の木が2本生えている場所で、青木の立間と呼ばれている場所。



その青木から溪流を渡った対岸の斜面で、大きな木を背にして獲物を待つ。もし小生が木の後ろに身を隠し、獲物が近づいた時に獲物を良く見ようと木から顔を出せば、獲物に感づかれて射撃する前に逃げられてしまうだろう。木の前でじっとしていると獲物には感

づかれる確率が少ないのだから不思議である。たぶん獲物からは人間と木が一体化して見えるのではなかろうか。

この青木の立間は写真のようにくっきりと獣道が確認できる場所で、獣の従来が多い、いわば幹線道路。期待できる。猟が開始されて30分くらいして対岸の山の斜面をシカが2頭ゆっくりとこちらに向かって下ってくるのが確認された。追う猟犬はいない。しかしながら、対面の山の斜面正面には電線が4本走っているので射撃時には注意しなければならない。万一弾が電線に当たり切断したら大変である。シカが電線より下に降りて来るまでじっと動かず待つ。距離は25~30メートル。緊張と集中で心拍数が上がる。先頭のシカが電線より下に降りてきた瞬間に素早くスコープのクロスサイトが獲物を捉え、射撃。轟音とともに命中。180グレイの3006弾の威力は絶大だ。驚いた2頭目はこちら方向に全力で駆けて来る。しめた。絶好の射撃位置に獲物の方からやって来る。ボルトをガッチャと手元に引き寄せ薬きょうを排出して次の弾を薬室に送り込む。ところがだ。あまりにも獲物が絶好の射撃位置だったために、力が入り過ぎたのか、ボルトを十分に手元に引き寄せないで、次の弾を込める操作に移ったために薬きょうが廃出されず、弾詰まりを起こしてしまった。急いで手で薬きょうを取出し次弾を込め終わった時には、シカは白いお尻が立木の間ちらっと見える程遠い山頂近くまで逃げていた。仕損じたか。あわてず力まずに操作していれば確実に獲物を止めることができたのに。

野球に例えれば、力み過ぎて真ん中高目のホームラン弾を撃ち損じたと同じことである。ボルトアクションのライフル銃は“接近戦に弱い”との定説どおりの弱点を露呈してしまった。



今日では猟師のほぼ9割が引き金さえ引けば弾の出る自動銃を使用している。ボルト式のライフル銃は自動車であればマニュアル車。弾道の正確さと姿の美しさでプロの狙撃手さえ今なお使用する銃。そのかわり“一発必中”で外せば獲物にも逃げるチャンスが生じるということである。ちなみに、われわれの猟友会でこのボルト式ライフル銃を使用しているのは植園氏と小生のみである。

12年1月25日は数年ぶりに北信地方の千曲川でカモ狩りを行う。長野市在住の友。人猟師からの誘いに応じたものである。本来は12月の初旬に行く予定だったのが都合で1月下旬に伸びてしまった。植園氏のBMWに散弾銃と3号、5号の散弾を積み込み、一路長野市に向かう。今年の北信地方は例年になく積雪が多く、猟を行うには良いコンディションではない。

カモ猟は11月中旬から12月中旬頃までは戸狩野沢温泉周辺の溜池を中心に行う。この時期はカモが溜池に居ることが多い。地理地形を知り尽くした地元友人猟師の案内で溜池をひとつ一つ見てまわる。池の150メートルくらい手前で車を降りて、矢先に人家はないか、人はいないか慎重に観察し安全を確認する。銃に弾を込め、散開して姿勢を低く保ち、言葉を出さずに手で合図をしながら静かに池に接近。合図とともに全員が同時に顔を出す。カモが居れば驚いて飛び立つのでその瞬間を射撃する。

12月下旬を過ぎると溜池は凍結するのでカモは居なくなる。また、野尻湖などの大きな湖も凍結するのでカモは不凍の千曲川やその周辺の川に居つく。とくに流れが淀んでいて周りから見えにくい場所を好む。地元友人猟師はそのような場所を良く知っていて案内してくれる。そして溜池猟と同じ様な要領で川に接近し狩りを行う。さらに千曲川の川に近い道路を車でゆっくりと移動しながらカモの居そうなポイントを対岸から双眼鏡で観察

し、カモが居ればそこに移動し同じ要領で狩りを行う。撃ち落としたカモはイヌが回収する。



千曲川のカモ猟はイヌなしでは成り立たない。気温-10度前後の寒さや流れをものともせず川に飛び込み、泳いで撃ち落としたカモを啜えて回収してくる。その働きぶりには頭が下がる。一度に2羽のカモを啜えてくる時があれば、何度も川に飛び込み回収を繰り返すことも珍しくない。このカモ猟は長野市周辺から飯山市の上流まで行う。しかし今年は積雪量が多く飯山市周辺では川に近づくことができないため、中野市までである。

あろうことか、小生は今回のカモ猟では一羽のカモも撃ち落とすことができなかった。射撃場でのクレー(皿)射撃では70~75%の命中率であるにもかかわらず。一羽も落とせなかったのは初めての経験ではある。クレー射撃と実戦は異なるのかもしれない。それとも小生は根っからのライフルマンなのか。

今シーズンは3回大物猟に参加して、植園氏と小生の2人で5頭のシカを獲った。特筆すべきは植園氏の獲ったシカは大きな体躯と立派な角を有する滅多に見られない大物であった。

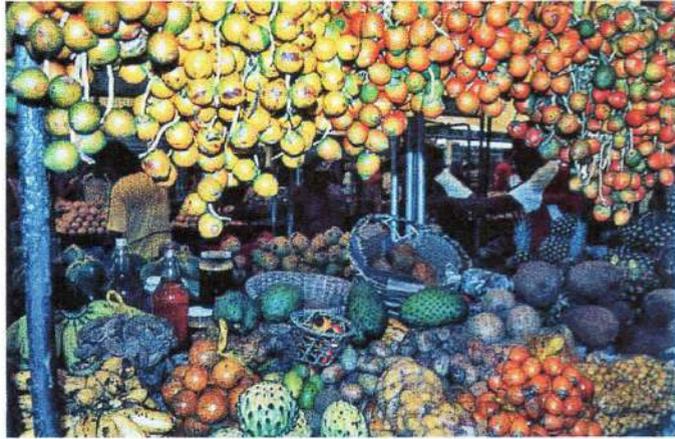


# 「ブラジルはフルーツ天国」

星野辰雄  
(ブラジル在住)

会長さんから何か「ブラジル」の話でもと声がかかりました。私事です。最近は何をするにも億劫が先に立ち歳の所為かまとまった話など尚のこと書けません。そんなこんな考えているうちに期限がきてしまい肩のこらないポピラーな食べ物話になりました。

ブラジルは赤道から雪の降るところまで南北4,000Kmもあり果物は年中どこかで採れています。暑い「アマゾン」の「バナナ」から寒い地方の「リンゴ」まで、春は赤黒い「サクランボ」秋になると径10cmにもなる富有柿が出廻ります。その名もCaqui、日本人が作るからです。



(ブラジルの果物屋さん)

では、ブラジルの代表的な果物を上げてみます。

## GRAVIOLA グラビオーラ



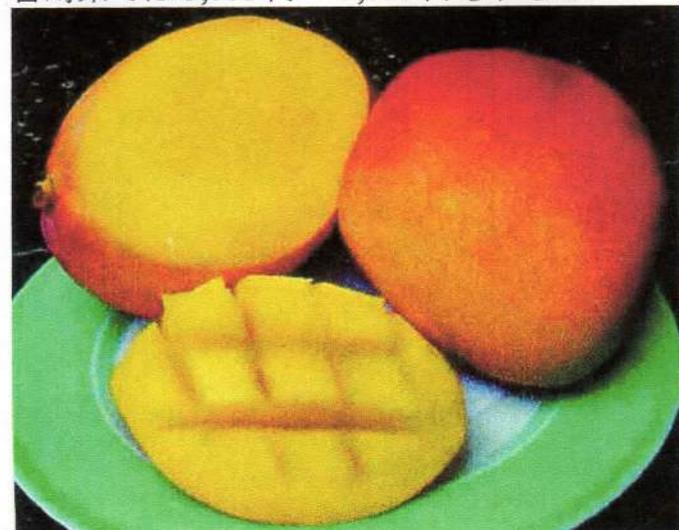
「グラビオーラ」は、ハリネズミみたいなトゲのあるフルーツです。大木の幹に、重さ4～5kgもある大きな果実が幹に直接10個も20個もなるのです。中味は繊維質ですが柔らかく甘味のあと酸味がうまく調和していて上等の味です。生食も美味しいのですが土地の人は温野菜として「焼く」「揚げる」などして食卓に出します。

②

## MANGA マンゴー

「マンゴー」は、南アジア原産ですが高温多雨を好み樹は10m～20mにもなります。街路樹(実の落下に注意とある)にもされています。

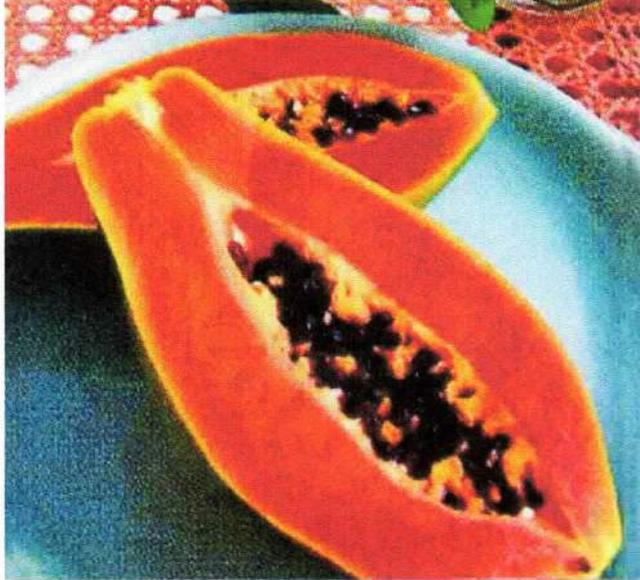
果実は大きく20cm～30cmくらいで緑色から黄赤色になると食べ頃です。味は甘く程々の酸味があり正しく果実の王様です。当地ではごく一般的な果実で一個40円～50円くらいで売られています。これが海の向こう宮崎県では3,000円～5,000円もするとか？



私も東京でご馳走になりましたが ブラジル産に比べると 色はキレイ 味は甘味が少々強いかな？と感じました。買う人がいるんですから 暴利とは言えないのかも知れません。同じような「マンゴー」も海を渡ると「マンゴー様」になるのですね？。

### ③ MAMÃO パパイア

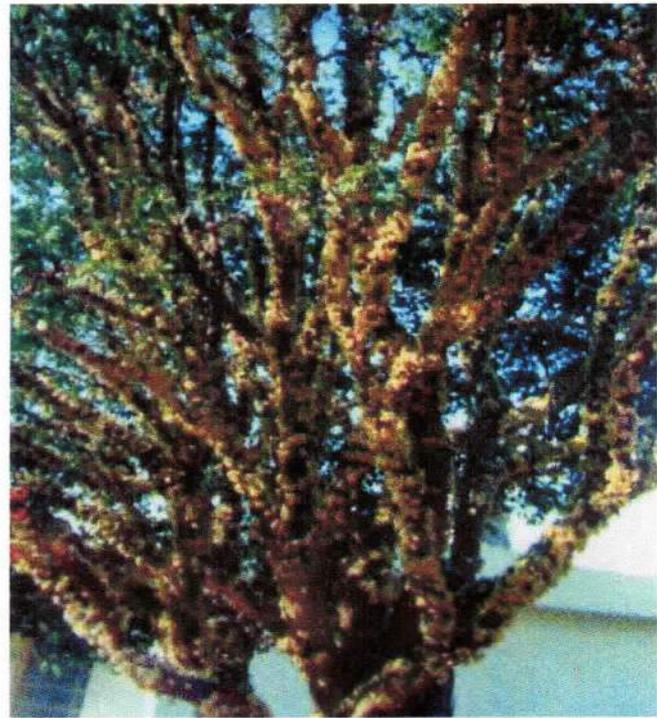
「パパイア」は、ポルトガル語(ブラジル語)では「Momão」ですが、日本語に略すると乳房です。滑らかな曲線を描き多肉質の果実が



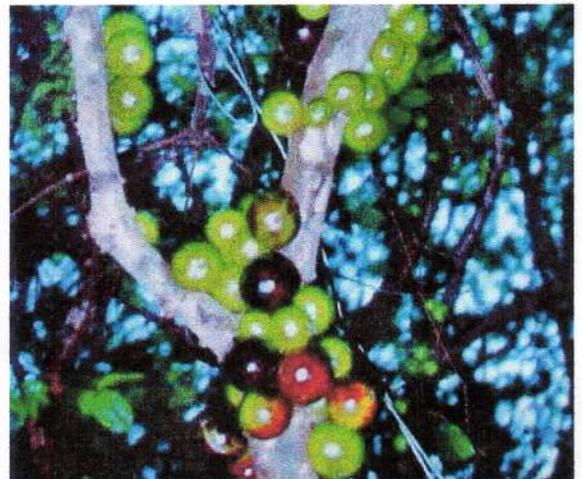
高さ約 10m の樹木にぶらさがっている様からの名が付いたとか？ 果肉は柔らかく甘いのでレモン汁をかけてスプーンで食べます。美味しいです。

年3回も収穫されるので 安くてごく一般的な果実です。青いものは漬物に、炒め物、煮物にまでします。「パパイア」は蛋白分解酵素(パパイン)があり 牛肉を柔らかくするため料理する前に果汁を使うとか食べると消化を助け 中の黒い種を食べると便秘にも効くとか、化粧品としても「シミ」「ソバカス」にも効果があるとか？。

### ④ JABUTICABA ジャブチカーバ



「ジャブチカーバ」は、木になっているところを初めて見る人は「わあ 気持ち悪い」と言います。その実のなり方なのです。木の幹や枝に 赤黒い実(2cm)が直接にぶつぶつとくっついてなる様をみて「うわ 気持ち悪い」となるのです。



当地では庭木などでもよくある木です。果実の形も味も葡萄そっくりで中に小さな種があります。当時の小泉首相がご来伯時「ジャブチカーバ」を食べ喜ばれたとのこと。

# お知ろせ

## 平成24年度 会費納入のお願い

平成24年度会費・総会后懇親会費を含む金額は、下記の通りです。

**合計金額 8,000円**

年度会費 2,000円

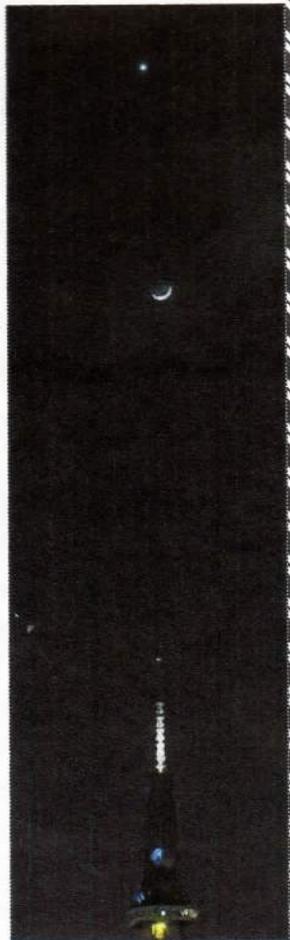
総会后懇親会費 6,000円

(総会・懇親会出席者は、当日徴収します)

### 縦に並んだ金星・月・木星、 スカイツリーとさっぽろテレビ塔競演



東京スカイツリーの夜空に、ほぼ一直線に並んだ(上から)金星、月、木星  
=東京都墨田区で2012年3月26日午後6時42分、三浦博之撮影(8秒間露光)



↑写真は  
さっぽろテレビ塔

**編集後記 毎日新聞 2012年4月2日余録:もちろん国家資格ではない。就活には役立たず…** もちろん国家資格ではない。就活には役立たず、スキルアップにもつながりそうにない。だが、生きがいが見つかったという人は多いらしい。「お笑い福祉士」。落語家の笑福亭学光(がっこ)さんが認定する資格だ▲福祉施設を訪問し、落語などを披露してお年寄りに笑いを届けているボランティアに与えられる。「シャレで始めた」という養成講座は徳島、高松、大阪、姫路、神戸へと広がり、受講生は年々増えている▲手術を終えて麻酔から覚めてきた患者の体位交換をしようとした看護師さん。「さあ、別嬪(べっぴん)さんの方を向いてください」。すると患者は反対側の若い看護師の方を向いた。それを見ていた看護部長、「意識レベル、OK!」。笑いのネタは日々の生活の中にある▲「やっぱり、シロウトさんはすごいです」と学光さんは言う。主婦、会社員、公務員、医師、看護師、タクシー運転手、教師、宝石鑑定士、占師など200人以上が資格を取得した。といっても受講者は全員が6級をもらえる。そこが国家資格の介護福祉士とは違う▲介護予防といえ、すぐに体操が思いうかぶかもしれないが、それだけではない。笑うことで免疫機能は高まり、腹筋や顔の筋肉の強化にもなる。介護疲れや虐待など暗い話題も多いが、笑いは支援する側にも効き目があるだろう▲わが国の高齢化率は世界の最先端を行く。欧州各国が追い、さらには韓国や台湾も続く。どの国も介護施設やヘルパーを増やさなければならぬが、福祉を拡充すれば財政負担も重くなる。その点、「お笑い福祉士」はいい。そのうち世界中が注目するようになるかもしれない。(K・M)